

らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

本日は、5月1日。

ということで、スニーカー前期に出してきました。

しかし結果発表が楽しみではあるものの、スニーカーはリニューアル時に発表が消えた事件があるので、いつ一次発表なのか想像できませんよね。

あんな事件はまさかもうないと思いますが、まあとにかく、あまり期待せずに気長に待とうと思います。

別に具体的な根拠はないけど、なんかスニーカーは、自分と相性悪そうだからなあ。

(だから今まで送ってなかった)

それから角川系の話をすると、1月が締切りだった富士見ファンタジアの一次結果を、今さらながら見ました。

って、通過リスト見にくすぎっ！

まあでも、見にくい方が名前を探す時に燃えるから、これはこれでアリ！

そんなわけで、知っている名前を探して楽しんだ後、ページ末尾にこんな文章が。

「ひとりで何作も応募してくれてるのになかなか通らない人（ごめんなさい）は、何か理由があるはずなので、投稿前に友達に読んでもらってみることをお勧めしますよ！」

……………。

コレ、地味に傷付くセリフだわ…………。

いやまあ、ファンタジア送ってないけど…………。

とまあそんなわけで、今日から5月になったので、ぼちぼちGA用を書き始めようかな。

前期に新作を送るのは初めてなんですが、暑い夏にするために頑張ろうと思います。

先日受け取った GA の評価シートに、「精神的な機微が上手に表現されています」と書いてあったんですが、「機微」って具体的には何なんでしょう？

そう思って辞書をひいたら、
「表面からは知りにくい、微妙な心の動きや物事の趣」

へえー、なるほど。
機微ってそういう意味なのか。

ちなみに機微って、それほどよく使う単語じゃないと思うんですけど、前々回も「心の機微が丁寧に描けています」というコメントをもらったんですよね。

もしかするとコレ、同じ編集者さんが書いてくれたんでしょうか？
それかもしくは、GA の選評を書いているメンバーは、全員機微が好きなのか。

それはともかく、GA って本当に不思議だなあと思います。

ちょっと自信のなかった作品を想像以上に誉めてもらえたり、かと思いきや、すごく自信のあった作品があっさり落選で酷評されたり。

もし落ちてばかりだったら「相性が悪い」と判断してもう送らないんですけど、意外な作品が通ったりするので、「あ、あれ、いけるのかな？」と思ってまた投稿してしまう。

そんなこんなで、ワナビ一年目の頃からずっと送ってますけど、GA はいまだに掴みきれない謎の存在です。

ある意味、小悪魔だな。

「ダメなんだ」と思って諦めようとしていたら、急に甘い台詞を言われて、「ああ、やっぱりもっと頑張ろう」みたいな。

このラノやガガガや MF のように、わかりやすく全滅してくれたら、もう二度と送らないんですけどね…………。

まあそういうわけなので、心の機微に注意しつつ、今回も頑張ってみます。

引き続き、GA の評価シートネタを。

自分は評価シートハンターなので、手に入れた選評はすでに数十枚に及ぶんですが、今回初めてキャラの名前を間違われました。

具体的に言うと、「梅代」というキャラを、「梅子」と書かれました。

なっ、何……！？

現代的な高校生なのに、名前が「梅子」だと……！？

何やらやけに、大正ロマン風ですよ。

「女子高生」というよりは、「女学生」みたいなイメージです。

それはともかく、漢字間違いは前もあったけど、名前そのものが違うのは初めて。

シートの内容はかなり誉められているんですが、こうして名前を間違われると、逆に怪しい気分になってしまいますよね。

これは、アレだな。

気になる女の子とカラオケに行って、

「オレの歌、どうだったかな？」

「最高だったよ！ 特にサビの『愛してるう～』の部分、感動しちゃった！」

「ははは、そう？ それじゃ、もう一曲歌っちゃおうかな」

で、次の曲を歌っている最中に、「ん、さっきの歌に『愛してるう～』なんて歌詞なかったよな……？」みたいな。

まあしかし、評価シートは都合よく解釈するのがマイワナビ鉄則なので、梅子はこの際見なかったことにしようと思います。

手持ちの据置ゲーム機は、PSX のみ！

異端ゲーマー、常木らくだ参上！

それはそうと、その PSX が壊れかけているようで、困ってます。

どう壊れかけかという、入れたディスクが、綿毛まみれになるんです。

精密機器のくせに、綿毛まみれ！？

中で何が起きているんだ……っ！

そう思って確認してみたところ、ディスクの挿入口にフワフワのクッションみたいな緩衝材が付いているんですが、それが古くなって破れているよう。

なるほど……。

出し入れのしすぎは、良くないってことか……。

いやまあ、別にそんなに出し入れしてませんけど、とにかく古いからもう寿命なんでしょうね。

しかしこれを機に PS3 を買ってしまおうと、今持っている 2 のソフトができなくなるので、おおいに迷うところです。

だって……。

2 のソフトで気に入ってるの多いし、逆に 3 で欲しいソフトって特にななし……。

ここはもう、アレですかね。

いっそのこと、このタイミングで PS2 の本体（新品）を買って、オレは勇者宣言しますかね。

「トルネ？ 何それ、食えんの？」みたいな。

「ああ、4 に登場した、トムじいさんを押す商人ね！」みたいな。

そんな 3 章ネタはともかく、任天堂は必ず下位ソフトに対して互換性をつけてくれるのに、その点ソニーは不親切ですよ。

そんなわけなので、細かい綿毛と戦いつつ、PSX を使い続けようと思います。

皆様は、一人で行動できるタイプですか？

らくだの場合、こんな感じです。

結構どこへでも、一人で行けます。

「遊園地はありえない」と言われたことがあります。後はまあ平均的かと。
ただ、最近流行りの「一人カラオケ」だけは、何があっても絶対に無理です。

【余裕で行ける場所】

牛丼屋

ファミレス

ファーストフード

漫画喫茶

博物館

寺社仏閣などの観光名所

ライブやコンサート系のイベント

【まあ行ける場所】

映画館

遊園地

動物園

植物園

水族館

プール

海

山登り

【絶対に無理な場所】

高級レストラン

一人カラオケ

「一人で高級レストラン」は、貧乏かつ小心者なので無理です。

「一人カラオケ」は、恥ずかしいというよりも、歌が下手なので無理。

一時間も自分の歌を聞き続けるなんて、単なる拷問でしかありません。

ちなみに、皆様はいかがでしょうか？

あまりにも友人を誘いすぎると「うざい奴」と思われそうですが、かといってずっと一人で行動している

と、冷たい人間だと思われて嫌われてしまうかもしれません。

バランスを考えて行動したいところですね。

小説書きが、イヤになった。

こんなに落ちてばかりなんて、自分にはきっと才能がないんだ。

仮にワナビであれば、誰しもそんな気持ちになった経験があるでしょう。

そんな時にモチベーションを上げる方法は、「イヤになるのは、好きな証拠である」と、強引に思い込むことじゃないでしょうか。

嘘だと思う方は、試しに苦手なことを思い浮かべてみてください。

自分の場合は、歌が苦手です。

カラオケなんか行くと、本当に肩身が狭いです。

でも「歌が下手でツライ」とか「歌がイヤになった」と思ったことって、よくよく考えてみると、全然ないんですよ。

そもそも、歌が上手になりたいとは思っていないし。

それに最初からずっと苦手だったら、途中で「イヤになる」こともできないわけで。

つまり「小説書きがイヤになった」と思うのは、逆に小説書きが大好きな証拠だと思うわけです。

小説を書くことに大きな理想を持っていて、でもその理想になかなか近付けないから、ツラく感じてしまうんじゃないでしょうか。

なので「小説書きがツライ」と思っている方は、「こんなツライ気持ちになるのは、自分が真剣に取り組んでいる証」と思って肯定的に受け入れると、きっとラクになれると思います。

まあね……。

こういうのは成功者が言ってこそ価値のある台詞で、ワナビの自分が言っても、まったく仕方ないんですけど……。

いいんです、別に。

そうやって自分を励ましている、寂しいピエロなブログですから。

まあとにかく、モチベーションが下がった時は「ツライのは好きな証拠」と思うか、もしくは一次全滅を悦びに変えられるドM体質を身に付ければ、ワナビ生活はさらに楽しくなると思います。

えんための新しい要項を見てきたんですが、ガールズ部門の方が1行40字になってますね。

あれ？

えんためガールズって、42字じゃなかったっけ？

そう思って見直してみたら、前回の字数指定は確かに42字でした。

電撃と同じでわかりやすかったのに、次回から40字に変更するってことですね。

まあ字数の指定くらい、実際は3秒で変更できるんだけど、でもなあ……。

自分は42字で改行が入る前提で文章を書いているので、その文章を40字や41字に変更すると、「ぶら下がり」が大量に発生するんですよ。

ぶら下がりって、気にしない人は全然気にしないけれど、自分は大嫌いです。

だって、ほら。

前の行に無理やり入ろうとして、せこい感じがするじゃないですか。

ええい、往生際の悪い奴め……！

この常木らのだが、貴様を成敗してくれよう……！

って気分になるんですよ。

まあそこまで42字改行にこだわっても、テキストデータにしたら何の意味もないんですけど、そこは気持ちの問題ということで。

とにかくいずれにせよ、自分がメインで投稿している電撃・SD・GAはすべて42字なので、今後も42字でぶら下がりが出ない文章を書こうと思います。

ふと思ったんですけど、世の中には「戦国無双」というゲームがあるのだから、「宣教師無双」というゲームがあってもいいんじゃないでしょうか。

ロヨラやザビエル、マテオ・リッチ等の宣教師から1名を選択し、自分好みに育成しつつ全世界布教を目指す、新感覚のアクションアドベンチャー。

ちなみに武器は火縄銃で、回復アイテムはカステラ。
ラストダンジョンは江戸城で、ラスボスは鎖国令を出した徳川家光。

まあね。
そんなことを「ふと思う」時点で、どうかしてるんですけどね。

いいんです、別に。
自分のセンスがおかしいことは、自分でとっくにわかっています。

投稿作の評価シートでも、自分ではすごく気に入ってるキャラについて、「個性的ではあるが、魅力的ではない」と言われた経験があります。

うん、そうだよね……。
でも自分は、このキャラ大好きなんだ……。

そういう時って、どうしたらいいんでしょうね？
自分の好みを曲げてでも、一般受けする方向に寄せるべきなんでしょうか？

そう思ってひたすら流行を追っていた時期もありますが、でもそれだと、自分が小説を書いている意味がないですよ。

ラノベが世に溢れている今、既存作と似た作品をわざわざ書いても仕方ない……！

そして生まれた「好きです、ザビエル様っ！」は、「設定は斬新だが、読者のニーズがない」と一蹴されました。

どうしてだ……！
どうして戦国武将はいいのに、宣教師無双はダメなんだ……！

今の戦国武将ブームが去った後、空前の宣教師ブームが来たらいいのになあと、結構本気で思っています。

ドラクエでセーブしようとする、神父さんに「なんぼんの冒険の書に記録するおつもりか？」って聞かれるんですね。

南蛮の冒険の書！？

なんて素敵な響きなんだ！！

思わずそう思った自分は、ザビエル萌えの伝道師。

いや、まあ……。

実際は「何番」なんですけどね……。

しかしファミコン時代ならまだしも、いまだに「なんぼん」が平仮名表記なのは、何か意味があったの事なんでしょうか？

これは、アレですかね。

何番というのがむしろ誤解で、本当は、南蛮の冒険の書が正しいとか。

ドラクエ開発者

「くっ、ははは……！」

3から9に至るまで、貴様らはずっと、南蛮の冒険の書に記録していたのだ……！」

20年越しにそんなオチが待っていたら、マジで惚れ直すぜドラクエシリーズ。

いや、だって。

「なんぼん」だけ不自然に平仮名だから、そんなイケナイ妄想をしてしまうんです。

おそらく低学年で習うはずの「何番」よりも、「冒険」や「記録」の方が難しいはずだから、これは理由があるとしか思えない……！」

そういう意味でも、10の発売が今から楽しみです。

本日更新された電撃の要項ですが、これまたスゴイの来ちゃいましたね。

その名もズバリ、電撃学校大賞。

最初に字面を見た時、「角川学園大賞の電撃バージョン？ おおー、送ってみようかな」と思ったんですが、要項をよくよく読んでみたら、どうやらリアル学生しか応募できない賞のようで。

兄貴、すんません……！

いい年齢のアッシには無理ですが……！

っていうかそもそも、この賞が募集しているのは、小説じゃないんですよね。

他の二つの点（賞金アップと受賞枠が増える）っていうのは魅力的ですけど、自分はそもそもそこまで辿り着けない存在なので、20回記念企画は実質影響ないなーという感想です。

「応募者全員に評価シート」とかだったら、過去の落選作品をまとめて全部送りつけようと思ってたんですが、まさかそんなことあるわけないですよ。

まあ、いいさ。

企画があろうがなかろうが、電撃には送るさ。

自分が電撃に投稿する理由は、もちろん規模が大きいからというのもありますけれど、少女系に寄ってても通してくれるというのが一番大きな理由です。

どう考えても少女系な「神父とローマ」が、一次通ったし。

それに電撃の発表で見かけた作品が、他の少女系の賞で通過していたりもするし。

とはいえ本格的な少女小説は書けない、どっちつかず状態の自分にとって、電撃の懐の広さはありがたい限りだと思います。

今年も少女寄りな作品を1本送ったので、その作品がどうなるか今から楽しみです。

まあもちろん、一番楽しみなのは「好きです、ザビエル様っ！」ですけどね……！

4月更新と宣言しつつ、10日近く遅れていた、このラノの3次発表。

ようやく更新されたようなので、つい先程公式HPを見に行ったら、
「2次選考を通過した24作品の中から、2次選考を通過した6作品が決定しました」

そうか……。

このラノって、2次選考が2回あるのか……。

まあいずれ気付いて訂正すると思いますが、一番重要な部分でこんな初歩的な間違いとか、ちょっと勘弁して欲しいですね。

それに発表が遅れるなら遅れるで、公式HPに一言書くべきだと思うし。

はい、そうです。

一次で全滅したから、喜んで悪口言ってます。

それはそうと、昨日は電撃の新要項の話をしましたが、長編ルルルカップの要項も更新されましたね。

まだ第一回の発表が出ていない段階なので、どういう賞なのかイマイチわからない部分もありますが、希望者全員に評価シートというのは魅力的。

まあその反面、9月のルルル大賞と違って賞金がなかったり、「400字での作品のねらい」という面倒な代物を要求していたり、投稿数が減ってしまいそうな要素もありますけれど……。

第一回到どの程度集まったのか、それから評価シートがどんな感じなのか、激しく気になるところです。

そんなこんなの、ワナビ的近況。

このままだとGA前期に参加できなさそうですが（だってまだ何も書いていない）、とりあえず4月のヤマを越えた今は、焦らず騒がずまったり過ごそうと思います。

先月だったか先々月の公募ガイドに、新人賞の紹介が載っていたんですね。

主に一般エンタメの各賞について、「この賞はこういう傾向がありますよ」と紹介する特集だったんですが、その中にこんな文章がありました。

野性時代フロンティア文学賞

「通過基準が甘いので、どこまで行けるか力試しに最適」

応募総数 881 作品中、2 次通過数 15 作品の賞が、力試しに最適だと？

なんと言うか……。

この紹介文を書いた人は、どんだけ上から目線なんだ……。

そんなわけで、公募ガイドに対して、地味にイラッとしてしまいました。

いや、まあね。

一般エンタメの賞についてはよく知りませんが、野性時代の基準が甘いのは、客観的に見て事実なのかもしれせん。

それでも力試し感覚で通過できるほど、新人賞って、簡単なものじゃないと思うんですね。

そもそも小説を一作完成させること自体が大変だし、たとえ一次であろうとも、通過させるのはさらにもっと大変なことで。

だからこそ、自分の名前を見つけた時は、本当に心の底から嬉しい。

逆に落選してしまったら、どうしようもなく悲しい。

投稿経験のある方であれば、きっと誰だってそうですよね？

もちろん、上の文章を書いた人に悪意はないと思うんですが、それでも「一次くらい通って当然」「この賞は甘いから通って当然」という言葉を聞くと、思わず腹が立ってしまいます。

まあでも、そういう自分だって、野球を見れば「100km の球は打てて当然」と思うし、サッカーを見れば「PK を外すなんて問題外」と思いますからね。

端から見ているのと、自分で実際にやるのとでは、根本的に基準が違う。

そう考えて、ようやく納得。

そして、立ち読みしていた公募ガイドを、そっと元の棚に戻したのです。

どっちにしる買わないのに、反感だけ覚えるなんて、我ながらイヤな読者だな。

そういうわけで、今日は以上です。

いや、3か月に一度くらいは、公募ガイド買ってますよ……！

前にチラッと書いたけど、今月末の GA 前期には、参加できなさそうです。

予定では先週の段階でプロットが仕上がって、今日から本文を書き始めるつもりだったんですが、プロットの「プ」の字も見当たらないこの現実。

はい、そうです。

計画を立てるのは大好きだけど、計画を実行するのは大の苦手です。

これは何も小説投稿だけでなく、旅行にも言えることですね。

「朝 9 時に起きて、9 時 50 分のバスに乗って、故宮博物館を 1 時間見学して……」とか、ものすごく熱心に計画を立てるんですけど、実行できたことは一度もない。

起きた時点ですでに 11 時で、せっかく調べたバスの時刻表も役に立たず、寄り道しながらゆっくり故宮へ向かったらすでに閉館時間（もしくは閉館日）。

海外滞在中、そんなオチを何度経験したか、もう本当にわかりません。

特に「北京鉄道博物館」なんて、探し当てるだけで 3 日かかりました。

それだけ適当だから、蒲田で光速ダッシュするハメになるんですよね……。

ちなみに先月東京へ行った時、離陸 10 分前に空港に着いて JAL の係員にすがりついたら、「すでにゲートが閉まっているので、今回はお乗りいただけません」と突き返されました。

「でも名前が呼び出されたってことは、まだ待ってくれてるんですよね!？」と泣きついて、無理やりゲートに連絡してもらって、まあ結局は無事に(?)乗れたわけですが。

JAL のお姉さんと一緒にゲートへ向かって走っている途中、「本来はお乗りいただけない時間ですので」と 3 回注意されたことも、今となっては東京旅行のいい思い出です。

いや、いい思い出にしちゃダメですね。

いい加減な自分を戒めるための、苦い思い出にしておこうと思います。

昨日、神戸市立博物館と中華街へ行ってきました。

そんなわけで、まずは中華街の写真をご紹介します。

横浜中華街で何もできなかったから、場所は違うけどリベンジだ……！



東側の入口、長安門の様子。

さすが日曜の昼時だけあって、非常に活気に満ちています。

門の脇には、中国語の自動販売機が！



コカコーラは、中国語で「可口可乐」。

この漢字を発音すると、「クーコウクールウ」。

「コカコーラ」の面影が、微妙にあるような、微妙にないような……。



南京町の中心の広場にて。

いやはや、ここもすごい人です。

ちなみに拡大するとわかりますが、手前の人形には名前があって、女の子が「来来」、男の子が「財財」らしいです。

来来はまあともかく、財財って直接的すぎ……。



それでは続いて、神戸市立博物館へ行ってみましょう。

上の看板の通り、現在は特別展「南蛮美術の光と影」が開催されています。

南蛮マニアを自称する者として、この機を逃すわけにはいきません。



今回のイベントは、写真にある「王侯騎馬図屏風」が目玉です。

しかし、それ以上に見たいのは、何と言ってもアレです！
ある「有名な肖像画」が、今の期間に限って、特別公開されているのです！

普段は一般公開されていない、非常に貴重な重要文化財。
そしておそらく、教科書に落書きされる率、不動のナンバーワン。

そうです。
その肖像画とは、こちらですっ！



この写真は図録を撮影した物ですが、この絵の本物が、期間限定で特別公開されています。（～6月3日まで）

実際に見た感想としては、17世紀の作品とはとても思えないほど、非常にいい状態で保存されていて感動

しました。

萌える萌えないはまあさておき、貴重な肖像画であることは間違いないので、関西にお住まいの方はこの機会に是非……！

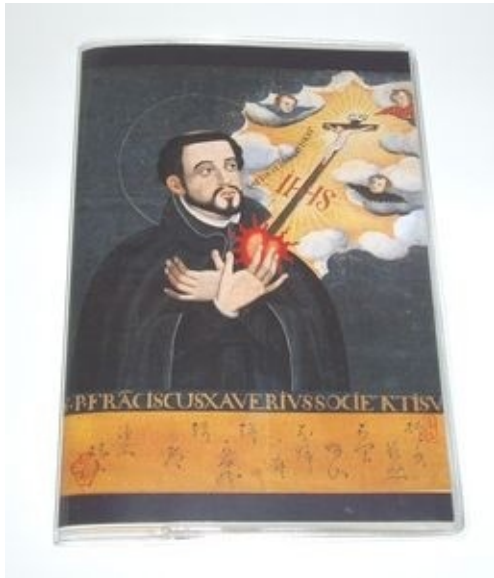
というわけで、次回は記念に購入した、グッズの数々を紹介しようと思います。

こんなグッズが欲しかった！

思わずそう叫びそうになってしまう、素敵なザビエルグッズの数々をご紹介します！

いずれの品も、神戸市立博物館の売店で購入しました。

【ザビエル手帳、500円】



中は無地なので、スケジュール帳にするもよし、プロットを書くもよし！

パスポートサイズなので、持ち歩きにも◎。

カバンやポケットに入れて、ザビエル様を携帯しましょう。

【ザビエルマグネット2種、各500円】



左は額に入った絵画風、右はコーティング仕様です。

机に貼って、勉強の合間に拝みましょう。

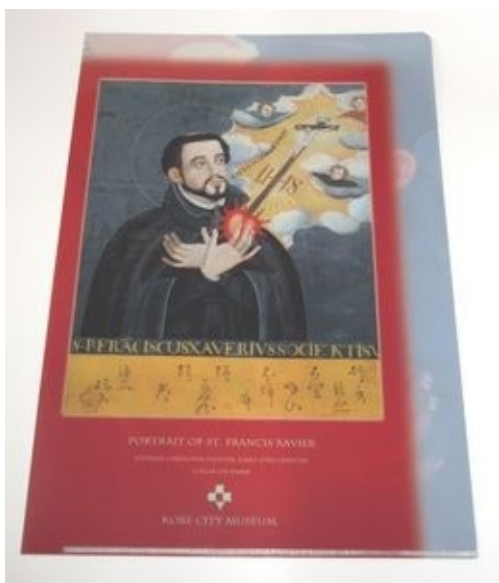
もしくは冷蔵庫に貼って、料理の合間に拝みましょう。

【ザビエル A4 クリアファイル、300 円】



写真だと衝撃が半減しますが、ものすごいインパクトです。
グッズをデザインした人の、熱い意気込みが感じられます。

裏はやや大人しいデザインなので、抵抗のある人は裏向けにして使いましょう↓



【ザビエルハンコ 2 種、各 630 円】



リアル版とSD版の、嬉しい2種類を用意！

特にリアル版の方は、耳の中まで丁寧に作り込まれています。

ちなみに以上のグッズは、特別展開催中の限定グッズ。

マグネットとクリアファイルは常設売店で売られていますが、それ以外は「南蛮美術の光と影」開催中しか売られていないそうなので、入手したい方はお早めどうぞ。

(～6月3日まで)



チケットは残念ながら、ザビエル様のデザインではありません。

しかし次回入場時に持っていくと300円引きになるので、とっておきましょう。

以上、ザビエルグッズの紹介でした。

さあ！

あなたもこれらのアイテムを揃えて、レッツ宣教師無双……！

ワナビとして小説投稿を続けていると、通過発表でよく見かける「なじみの名前」が自然と増えて、その人がどういう通過歴の持ち主なのか検索したりしますよね？

いやまあ、人によってはしないかもしれませんが、自分はするんです。
それでブログ等を閲覧し、場合によっては、お気に入りに登録するわけです。

そんなこっそり応援しているワナビさんの作品で、なろうで公開されている物の中に、個人的にすごく好きな作品があるんですよね。

「こんなに面白いのに、どうして落選だったの？」
「何が原因で落ちたのか、この作品の評価シートを、激しく読んでみたい！」

なんてことを、勝手に思ったり。

個人的にはどこかで受賞して出版されて欲しいけど、なろうで公開している以上、これから他の賞に使い回す予定はないんだろうなあ……。

この話が出版されたら、絶対に買うのになあ……。

まあとにかく、その作品だけに限らず、落選した中にも面白い小説はたくさんあると思うわけです。

そういう作品を見かけるたびに、「これは一次で落ちるような作品じゃない！」と、作者の代わりに叫びたくなってしまいます。

だから、そう！

一次落ちした自分の作品だって、見方によっては面白いのかもしれない！

……………。

結局のところ、いつも通り、全力で自分を励ますオチ。

まあ「らくだ図書館」は、そういうブログですからね。
ガガガやこのラノの全滅に負けず、頑張ろう自分……！

だいぶ前に紹介した、第27回アルク翻訳大賞。

字幕翻訳部門は「グッド・ドクター 禁断のカルテ」という映画からの出題で、課題を読んだら、こんな内容でした。

【姉と弟の会話】

「結婚するなら、やっぱりお医者様よね！」

お医者様と一緒に暮らして、人体の構造について勉強したいわ！」

「人体の構造だと？ そんなら姉貴、知ってるだろ？」

……と言いながら、弟がフェラチオの真似をする。

「ちょ、ふざけないでよっ！」

細かい部分は違いますが、内容的にはこんなシーン。

しかし、フェラチオって……。

いやまあ、課題なので訳しますけれど……。

それにしても、中学生や高校生も参加するかもしれないのに、真面目な少女が「フェラチオって何？」と思って画像検索してしまったら、どう責任取るつもりなんだアルク！

それはまあともかく、台詞を訳すのは面白そうなので、取り組むのが楽しみです。

キャラの個性を出しつつ会話を書くなら、お手のもんだぜ！

だって何しろ、ワナビだからな！

そんなわけで、無駄にテンションが上がったので、ブログに書いてみました。

うん。

6月は特に投稿の予定がないから、アルクの課題に取り組むことにします。

講談社ラノベの応募総数がこんなに激減するわけがない。

いや、だって……。

前回は1109本で、今回は333本とか……。

まあ、アレですね。

減ってしまった原因を推測してここに書くことはあえてしませんが、今後の賞の存続は大丈夫なのかと思わず本気で心配してしまうくらい、本当に深刻な減り具合ですよ。

へっへん！

いつも酷評されてるから、こういう時くらい、上から目線で発言するぜ！

いやまあ、講談社に酷評されたことはないですけど。

そもそも前回は今回も、講談社に送ってないですし。

しかし、応募総数もさることながら、投稿先を決めるにあたって、一番重要なのは評価シートですよ。

「一次は通ったものの、コメントの意見何これ？」

この賞が求めている物は、自分には書けないな……」とか。

「結果的には一次落ちだったけど、この部分は評価してもらえたのか！

それなら悪かった点を直して、もう一度送ってみようかなあ」とか。

何というか評価シートのコメントを読むと、「落選／通過」だけでは計り知れない、根本的な相性が透けて見えるような気がします。

もちろん同じ賞でも毎回同じ人がコメントを書いているわけじゃないですが、それでも賞との相性って絶対にあると思うので、これから小説投稿を始められる方は、色んな賞に出して相性を探ってみるのがいいと思います。

例によって謎の胃痛に見舞われ、しばし更新が途絶えておりました。

このブログにも何度か書いていますが、自分はどうも胃痛持ちの体質らしく、たまに激しい胃痛に襲われるんですよね。

その痛さたるや尋常ではないので、何度か精密検査（超音波検査やら、胃カメラやら、造影 CT 検査やら）を受けたんですが、しかし悪い部分は特に見つからず。

何でだろう……。

一応市内で一番大きい病院なんだけど、大学病院とかに行った方がいいのかな……。

というわけで、次に胃痛さんがやって来た時は、大学病院で検査しようと思います。

っていうか、アレですね。

小説執筆には自分の経験を活用しろとよく言われますが、胃痛のキャラクターを自分が書いたら、すごくリアルに描写できそう。

主人公

「オレは胃痛と戦う E2 戦士！ 食後の胃薬は別腹だぜ……！」

まあ、読み手の共感は得られないでしょうけどね。

そもそも胃痛って、わざわざ追体験したいものでもないだろうし。

それにその話を真剣に書くと、また例によって「わざわざ長編で書くような内容ではない」と言われそうなので、E2 戦士を書くのはやめておきます。

それにしても、あの胃痛は何なんだろう……。

吐き気は全然しないので、心因性の胃痛ではないと思うんですけどね……。

シンデレラのガラスの靴って、おかしいと思いませんか？

だってあの靴は、妖精のおばあさんが魔法で出してくれた物なのに、どうして夜の 12 時を過ぎても元に戻らないんだ……！

まあもちろん、ボロ靴でシンデレラを探したら絵的にサマにならないので、ガラスの靴のまま探してくれてもいいんですが。

しかしそれならそれで、事前にフォローしておくべきですよ。

たとえば妖精のおばあさんに、
「このガラスの靴は本物なの。あなたにプレゼントするわね！」
と言わせるとか。

もしくはシンデレラに、
「私ガラスの靴持ってるんで、靴だけ自前で参加します！」
と言わせるとか。

変身シーンにそういう一言があれば、ガラスの靴がそのままでも納得できるのに、そうでないとご都合主義になっちゃいますよね。

はい、そうです。
名作ラブストーリーのあら探しをする、イヤなワナビです。

それからシンデレラと言えば、継母は変態ド S 人間だと思います。

だって……！
シンデレラにかわいいドレスを着せた上で、わざわざそれをビリビリに破いて楽しむなんて、ド S 以外の何物でもない……！

そんな名作、シンデレラ。

部屋を掃除していたら DVD が出てきたので、変身シーンでガラスの靴がどうなっているかに注目しつつ、もう一度見てみようと思います。

SD に送った「好きです、ザビエル様っ！」の評価シートなのですが、「続編・次回作への期待度」の項目が、三段階の中で一番低い「要努力」になってました。

そしてコメント欄には、「この作品を楽しむのは難しいと思う」と書かれました。

うん、そうだよね……。

自分でもわかってたけど、送っちゃってごめんね……。

しかし酷評されて終わりではなく、設定については、
「目のつけどころについては、大変興味深いと思う」
「今受賞して書いている作家でも、この設定は思いつけるものではない」

……と、絶賛(?)してもらえました。

まあね……。

ザビエル萌えがテーマの作品とか、普通の神経では思いつかないよね……。

しかしザビエル様を投稿して思ったんですが、自分の趣味に偏りまくった極端な作品を送ると、選評も極端な評価になって面白いと思いました。

逆に平凡な話を送ると、選評のコメントも平凡になって、執筆に役立てにくい。

というわけで得た教訓は、「投稿作は趣味に走るべし」。

もちろんザビエル様は落ちてしまったわけですが、無難な作品を手堅く送るよりも、個性をぶつけて撃沈した方が為になると思いました。

そういう意味でも、電撃の発表が待ち遠しい今日この頃。

ザビエル様はもちろん、父さん祭りの作品やら、尿意棒ファンタジーやら、今年も全力でネタを仕込んだので、通過してくれるといいなあと思います。

「まだ送ったことないけど要項が気になる賞」No.1 は、講談社 BOX-AiR 新人賞。

何が気になるって、異色すぎるこの要項↓

<応募に必要な物>

1. ストーリーの第 1 話 (40 枚以内)
2. ストーリーの第 2 話 (40 枚以内)
3. ストーリーの最後までを書いたあらすじ (1200 字以内)

各話 40 枚というと結構多そうですが、文字組みの指定が 39 字× 16 行なので、通常の文庫体裁 (42 字× 34 行) で考えると約半分になります。

つまり第 1 話 (約 20 枚) と第 2 話 (約 20 枚) を書けば応募できる計算なので、電撃換算にして約 40 枚で投稿可能ということです。

そしてもう一つ面白いと思うのは、1200 字以内のあらすじ。

本文は 2 話しか書かなくていいのに、あらすじは最後まで必要ってことは、第 3 話以降を勝手に捏造していいってことですよ。

「本文はここで終わってるけど、この後すごいことが起きます！」みたいな。

「全米が涙した、今世紀最大のラブストーリー！」みたいな。

そんな感じでこの賞のことは気になりつつ、しかし書き始めると最後まで書いてしまうので、送れずじまいの BOX-AiR……。

しかし 40 枚で送れる点は魅力的なので、アルクと並行して 6 月に書いてみようかな、と思ったり。

うん。

いつも通り計画倒れにならないよう、まずはアルクの翻訳を始めないとな。

CERO・C 指定の字幕翻訳以外に、出版翻訳と実務翻訳にも応募するつもりなので、重い腰を上げて取りかかろうと思います。

物語が作者の都合で動いている、ご都合主義、ご都合展開……。

選評にそう書かれて落ち込んだ経験は、ワナビであれば、誰しも一度や二度はあることでしょう。

しかし改めて考えてみると、物語が作者の都合で動くのは当然のこと。
作者にとって不都合な話の方が、むしろ根本的におかしいはずです。

それなら一体、何が問題なのか？

自分なりに色々と考えてみたんですが、「ご都合主義」と言われてしまう作品は、何かしら描写できていない部分があるんじゃないかと。

たとえばスポーツ物の作品で、それまで優勝を争っていた主人公のライバルが、突然試合を放棄して主人公を応援するようになったとします。

何の前振りもなくそういう展開になると、「ご都合主義」確定。

逆にライバルが主人公を応援するようになった理由が、作中でしっかり描写できていれば、「ドラマが書けている」という評価になるんじゃないかと。

たとえば「夜中に猛特訓している主人公の姿を目撃した」とか、まあ何でもいいですけど、あまり展開を急がずに、そうなった理由をちゃんと説明することが大事なんだと思います。

そうすれば「ご都合主義」な作品は、「共感できる」作品に進化する……！

まあ頭でそう理解していても、いざ筆を持つとそんな風には書けないから、いまだに一次全滅などという憂き目を見たりするわけですが。

まずはとにかく、自分の作品から「ご都合主義」を排除するべく、自作を改めて見直してみようと思います。

今までに受け取った評価シートの中で、一番「ためになった」と感じたのは、去年のSDに送った「激烈ワナビ戦」。

結果的には一次落ちで、落選の理由に「キャラ造形が平面的で、魂を込めきれていない」と書いてあったんですが、その一言に非常にやる気をもらいました。

というのも、以前受け取った別の作品の評価シートに、「昼ドラマのような展開で、ラノベらしくない」と書かれたことがあるので、ワナビ戦はわざと軽いノリで書いたんですよ。

あまり人間関係を複雑にせずに、あっさり書き流した方が、今時のラノベらしい雰囲気になるのかな、と思って。

そう思って出した作品に対して、「魂を込めきれていない」というコメントをもらって、「ああー、まさしくそうだよな」と。

それと同時に「やっぱりこれじゃダメだよ」「小説はドラマを書いてナンボなんだ」と再認識できたので、SDの評価シートには感謝することしきりです。

というわけで結果は一次落ちでしたが、賞の意見と自分のやりたいことが一致した感じがして、あの評価シートには非常にやる気をもらいました。

落選した作品にも、こんな風に意味を持たせられたら、送った甲斐がありますよね。

うん、そうだ。

ワナビたるもの、失敗を恐れるべからず。

一次落ちは、恥ずかしいことではない。

一次落ちは、恥ずかしいことではない。

二回唱えて自分自身を励ましつつ、今日のブログは以上です。

電撃の応募総数が発表されましたね。

何だと……！？

てっきり6月10日だと思って油断していたぜ……！

というわけで、公式HPを見てきたんですが、これまた激増ですね。

全体の応募数は6771作品で、そのうち小説部門は6078作品。

いやはや。

小説だけで6000越えとか、相変わらずの激戦区っぷり。

しかし、今回は自信があるので大丈夫！

何しろ応募総数421作品の「このラノ」で、5作品が一次全滅という完全敗北を経験したこの自分に、もはや怖いものなどありはしない……！

もっと言うと、ガガガも4作品が全滅だったぞ……！

……………。

自信というより、開き直りですね。

もうね。

本当にアレです。

通過歴の記事には通った経歴しか書いてませんが、一次落ちした経歴をすべて書いたら、ものすごいことになります。

それこそ、前を向いて歩けない状態になります（自分が）。

いや、いいんだ！

一次落ちは、決して恥ずかしいことではないんだ！

というわけで、昨日と同じ結論に至りつつ、今日のブログは以上です。

ここ2日間「一次落ちは恥ずべきことではない」と書きましたが、今日もその話を。

一次落ちは、恥ずかしいことはありません。
何故かと言うと、落ちる方が普通だからです。

だって、ほら。

最近の少年系ラノベの主要な賞で、一番（倍率的に）ゆるかったのは、前々回のえんためだったと思います。

確か681作品中、330作品くらいが、一次通過したんでしたっけ？

すみません。

正確な数字はちょっと覚えてませんが、とにかく倍率が約2倍だったのは事実のはず。

そんなわけで、発表当時は「2倍!?!」「ゆるすぎ」「これで落ちる奴バカだろ」と騒がれましたが、しかし一次通過倍率2倍って、果たして本当に楽勝なのかなあ、と。

だって2倍ってことは、半分は落ちるってことですよね。
つまり落ちるのは普通であって、異常じゃないってことですよね。

2倍でもそうなんだから、10倍を超えるような賞は、むしろ落ちる方が当たり前。
だからこそ、一次落ちは恥ずかしいことじゃないと思うんです。

というわけで、今後「一次落ちなんて才能ないんだね、かわいそうに」と言われたら、「コイツは小説投稿について何もわかつちやいねえ素人だ」と思うことにしましょう。

それでも思わないと、一次落ち回数が多すぎて、もうやってられないよ……！

まあ、アレです。

小説執筆の心得と見せかけて、実際は単なる愚痴語りです。

でも小説投稿は落ちる人の方が多いんだから、一次落ちは決して格好悪いことじゃないというのは、本当に声を大にして主張したいです。

今週買った趣味の品。



【ドン・モジャールのぬいぐるみ】

2011年11月11日発売

定価：2,730円

高さ：約21cm

店頭で購入したら、自分の年齢的に「お子様へのプレゼントですね！ ラッピングしましょうか？」と言われそうなので、Amazonでこっそり購入。

しかしこのぬいぐるみ、写真では細部がよくわかりませんが、実際に手に取ってみると、なかなか満足できる出来です。

頭と背中には「とさか」もしっかり付いているので、帽子と上着と眼帯を切り離せば、ドン・モジャールから普通のもんじゃに退化させることも可能！

まあ服を着ていて構造が複雑な分、スライムやプリズニャンよりも1,000円近く値段が高いため、わざわざ切り離すのは非常に勿体ないですが……。



タグにはこの通り、ドン・モジャールのイラストが。

しかしコレ、対象年齢が12歳以上らしいです。

裏面には「対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください」との注意書きも。

12歳以上ってことは、CERO・B指定かよ……。

小学生に遊ばせちゃいけない、ももんじゃのぬいぐるみって……。

こうしてパッと見た感じ、アダルトな要素があるようには見受けられませんが、何を基準に対象年齢を12歳以上に設定したのか謎すぎる。

誤飲の危険も特になさそうだし、スラもりって小学生向けのゲームだと思うんですが、このドン・モジャールは思春期以上を対象とした製品らしいです。

まあとにかく、さっそくPCの横に置いて、執筆のお供にしようと思います。

ファンタジア前期の評価シートが、今日、メールで発送されたみたいですね。

うーん、気になる……。

自分は投稿してないけど、メールで届くのって、どんな感じなんだろう……。

メリットは、

- ・ すぐに届く
 - ・ 家族にバレない
 - ・ PC にデータを保存しておける
 - ・ 海外在住でも確実に受け取れる
- ……ってあたりですかね。

まあでも、自分は選評が郵送で届いた時の、あの緊張感も好きですけど。

ある日何気なくポストを開けたら、出版社からの地味な封筒が入っていて、「うわっ、どうしよう！ あの話の評価シート届いた！？ ギャー！！」

で、赤面しながら部屋へ駆け込み、冷や汗を流しながら内容に目を通す。

うん。

あの緊張感は、たまらんよ本当。

まあ、ワナビ的に一番緊張する瞬間は、もちろん通過発表の時ですけど。しかし評価シートが届いた時って、それとはまた別の緊張感がありますよね。

だって、ほら。

「自分の話がどう受け止められたか」って、書いた人間として一番気になる部分だし。

だからこそ、否定された時は傷付いてしまうけれど、その分嬉しいこともあるからやめられない。

そんな素敵なワナビライフ、あなたも始めてみませんか？

……と、テレビ CM 風に締めくくりつつ、今日のブログは以上です。

えっと。

「一迅社」の「迅」は、迅速の「迅」ですよ？

それはそうと、このブログの検索キーワードを見ていると、「一迅社」が意外と多いことに驚いてしまう。

しかも「一迅社」単独ではなく、「一迅社・発表・まだ」とか「一迅社・発表・遅い」が圧倒的で、思わずうなずいてしまいます。

大丈夫だよ……！

みんなそう思ってるから……！

それにしても、締切りから一次発表まで一年近く待たされると、正直どうでもよくなってしまいますよね。

強がって「べっ、別に落ちても構わないもん！」と思うのでもなく、悲観的になって「どうせ落選でしょ？ いいよ、もう」と思うわけでもなく、ただ本当にどうでもいい。

「一迅社？ ああ、そんな賞にも送ったっけ」みたいな。

こんな気持ちになったのは、正直言って初めてのこと。

今までどんな賞に送っても、一次発表は楽しみだったのに。

ワナビを悟りの境地へと導いてくれる、究極の放置プレイ by 一迅社。

いや、だってねえ……。

ここには特定の賞の悪口はなるべく書かないようにしていますが、一迅社の他を寄せつけない遅さだけは、ネタにされても文句の言えないレベルだと思います。

たぶん7月だと思うけど、一次発表があったら、また思いっきりネタにしてやるぜ……！

本日は、評価シートの思い出話を。

自分が初めて受け取った評価シートは、3年前の電撃に投稿した「南国サンクチュアリ」の評価シートで、コメント欄に「なんとも、すこやかな話」と書かれました。

「すこやか」って、子供の七五三か……？

そこはできれば、「さわやか」と書いて欲しかった……。

しかもその評価シート、コメント欄の最後の方が見切れていて、文章が途中で終わっているという仕様。

文末に何が書いてあったのか、ものすごく気になる……あっ！

なるほど、今わかった！

こういう風に、続きが気になる文章を書けてることか！（違）

まあ実際のところは、エクセルを使って書いた文章が、枠の中に入り切らなかったんだと思われます。

そんなわけで最後が気になるものの、途中で見切れるくらいコメントを書いてもらえたことは、頑張って投稿した者として嬉しいですね。

おまけに南国は自分が初めて書いた話で、完成までに一年以上かかったこともあって、余計にテンションが上がりました。

だって、嬉しいじゃないですか。

自分が書いた作品に対して、感想が返ってくるのって。

まあその後、別の賞の評価シートで「ここまで書くか？」というほど罵倒されて、爆死するわけですが。

そんなこんなの、ちょっと切ない、ワナビメモリー。

心のワナビアルバムを一杯にするべく、今後も投稿を続けていこうと思います。